

◆1934年（昭和9年）3月26日（*宮木の名の初出、*～は筆者注、以下同）

…小林全集刊行会の仕事で私と共働きするやうになった保釈出獄中の宮木喜久雄に対して…

*ナウカ社版多喜二全集編纂の仕事で貴司は「党の遺託」として個人的に引き受け自宅で作業していたと思われるが、戦後の新日本文学会版全集の月報三号によせた『『小林多喜二全集』の歴史』のなかでその仕事の協力者として「中野重治、宮木喜久雄、松原宏遠、丸山義二、村山籌子、塩田民夫（ナウカ社員）」の名をあげている。

但し、宮木の名の初出はこの記事だが、貴司は昭和3年からここまで日記を付けることをやめている。この日記を再開した日の長文の記載の中にも、日記を付けなかった時期（作家同盟が最も活動していた時期）さまざまな局面で宮木と協働していたと推定できる言及がある。

…三月頃宮木が保釈で出てきて、壺井の細君の家に同居している間に…

…宮木は之亦大したわきまへの深くない幼稚な一面の目立っている男だし、よく噂を好むタチなので、……

…（*作家同盟解散という意見に対して）…宮木と鈴木（清）はすぐ賛成したが、中條と窪川夫婦はただただ慨嘆するばかりで、結局かやうな意見を抱いた私を非難するといふのであった。それでは君は一体どうすればいいのかと私はきいた。すると、窪川鶴次郎は言を左右に託して遂に何も答えず、…中條は、どうしていいのかわからぬと正直に答えた。窪川いね子は唯びっくりして目をみはっていた。…

*宮木のことよりも、作家同盟解散というドラスティックな提言に対する中條、佐多夫妻などのそれぞれの対応が人柄が偲ばれて面白い。

◆1938年（昭和13年）10月22日

…（*偶然銀座で中野重治に会った時の喫茶店での雑談）…市役所渋谷出張所での自分（中野）の日給は一円六十銭である……原泉子は、妊娠六ヶ月である。…一昨年の秋にとらへられた宮木喜久雄は懲役五年、未決通算三百日…

*東京市役所渋谷出張所での中野重治のアルバイト代が日給1円60銭！

◆1943年（昭和18年）6月16日

…夜、昭森社の宮木、長橋の二君来り、雑談して行く。…

*宮木の下獄は1940年頃までと思われるので出獄後早期に昭森社に勤務したと推定される。

*昭森社：1935年森谷均が創設。森谷均（1897年6月2日－1969年3月29日）は岡山県出身。中央大学商学部卒。1934年斎藤昌三の書物展望社に入り、35年東京京橋で昭森社を創業。詩集、美術書など良書を出版。戦後神田神保町に移り、46－49年総合雑誌『思潮』、61－87年『本の手帖』を刊行。森谷のあとは大村達子が継いだ、91年ころ廃業。 <http://d.hatena.ne.jp/jun-jun1965/20131029>・2017/5/3閲覧

◆1943年（昭和18年）7月19日

…（*見え消し）窪川、宮木君と光悦で会食。…

◆1943年（昭和18年）12月19日

…大月桓志君来。夕方宮木喜久雄君夫妻来。会食。…

*大月桓志：大阪のプロレタリア文学者。秦重雄氏のブログによると「大月桓志（恒志）は本名前田房次。1906～89。古稀を記念して自分でガリ版を切って自叙伝『流れ流れて』を出されました。彼は戦前大阪でプロレタリア文学運動に参加しています。有名な「拷問に耐える歌」の田木繁と行動を共にしています。小林多喜二の小説の挿絵を描いた画家大月源二が来阪したときに彼に惚れ込み筆名としたと書いています。戦後に大月常靖と筆名を変えています。自叙伝『流れ流れて』には探偵小説を書いたことにはほとんど触れていません。彼は戦前の運動仲間と共に「煙」という同人誌を出していましたがそこでも探偵小説については言及をしていません。」とある。

<http://www3.wind.ne.jp/kobashin/cgi-bin/tnotei.cgi?book=tsguest&from=843&to=845>・2017/5/3閲覧

◆1944年（昭和19年）3月12日

…宮木君きて窪川稲子さん帰宅の由を語る。

*「……帰宅の由」は意味深。佐多稲子はこの頃既に窪川鶴次郎と別居状態にあったが、時々は“帰宅”していた、という意味に解するのが妥当か。

◆1944年（昭和19年）9月8日

…陸運協力会の宮木君…

*戦時中鉄道省内にあった財団法人。『輸送戦線』という雑誌を出している。

◆1944年（昭和19年）9月19日

…晴。東京駅前の鉄道省で宮木君にあひ、あした又でかける上吉田行きの切符の周旋を頼む。

◆1945年（昭和20年）1月2日

…夕方になって宮木君がくる。…待たせておいて自分で台所に行き、大晦日から煮ておいた小豆に配給の砂糖を大半費してぜんざいをつくる。ぜんざい、北京のみやげ、重詰めのお惣菜などで夜までタラフク食事。食後、宮木君を相手に寝室の机のそばでいろんな話をして、同君のかへったあと、十時ごろにねる。

*すでに米軍の空襲が始まっていた時期。正月に訪ねてくる人も宮木一人である。この時期、宮木との親密さが想像される。

◆1945年（昭和20年）1月28日

…宮木君が遊びにきて、きのふの市中の様子を告げる。銀座界隈が爆撃されて…

◆1945年（昭和20年）2月18日

…永福町の宮木君を二度訪ねて、無理に東京駅までつれだし、駅長室で切符の交渉をさせる。夜九時の汽車で西下。宮木君から百円借りる。

*大阪在住の旧友林田の応召を見送るため無理して大阪に出かけたのである。

◆1945年（昭和20年）10月2日（*敗戦後、京都に疎開中、一時的に上京し在京時の記事）

…渋谷…この辺も亦一望ただ焦土。…鉄道省に宮木君を訪ねる。不在。

◆1948年（昭和23年）12月27日

…長野県の宮木君来り夕方までいる。遠方からやってきてもいつも一向に持ってくる話のない友人である。こちらからばかりいろんなことをしゃべって、しまいにはへとへとに疲れてしまう。

*この時期宮木は長野に隠遁していたらしい。長野の何処かは不詳。

◆1949年（昭和24年）4月8日

…信州の宮木君入来。夜までいる。仕事止まり閉口。

◆1949年（昭和24年）4月10日

…宮木君又来る。金を出せという。仕事できず、金がとれないで困っているわけをいってかえってもらう。気の毒になり少しばかりやる。同君は信州で生活に困り、東京に出てきて産別に入り『労働戦線』の記者になるよし。（*産別：全日本産業別労働組合会議、1946～1958に存在）

◆1951年（昭和26年）6月15日

…午後宮木喜久雄君が一年ぶりでひょっこりはいつてきて、数時間じっとしている。もてあます。夕方やっと帰る。

◆1951年（昭和26年）7月31日

…宮木君がきて、作家の所得税過納分とりもどし交渉を引きうける仕事をはじめたという。（かれは小平の佐多稲子の家に寄食中。）自分も早速かれに二三年來の過納分の取り戻しを依頼する。政府が作家の原稿料等を源泉課税で二割天引きすることを去年からやり出したため、大部分の作家が過納となって、その金が一応や二応ではとり返せず、多くは政府に横領されてしまっているのである。

◆1952年（昭和27年）1月26日

…おきて座ったところへ宮木君くる。長野県へ帰っていたとのこと。……

*実質的な宮木の動静についての記事の最後。

◆1965年（昭和40年）1月27日

…江口渙君来談。作家同盟解散事情というのについて、アカハタにかれがでたらめを書いたことについて……

（*アカハタのコラムに、作家同盟の解散は毛利特高課長の指示だったというような記事を書いた件）…昔かれがわたしをケイシ庁に売ったことは、ついにこちらからふれなかった。すると私が何も知らないと思って「君をバラしたのは宮木だ」という。これは数回以上、かれが私にいうのだが、そうしたかれの人間的欠陥がこんどのような作家同盟についてのつくり話を平気でまきちらすのだ。もうかれも七十いくつなのだから何もいわず平静に死なせてやりたい…

*貴司山治日記における宮木の名前出現の最後。

貴司妻・孝子の日記の記載

1943（昭和18年）／9／22

（雑用を頼んであったのができあがらず）……煮えきらないにやりすと、何処へと聞いてもにやにやしてるだけでじれったくなってきよならと大きな声を出してしまった……

1943／10／15 宮木氏昭森社欠勤云々

1943／12／19 宮木さんの結婚祝い会食